

《そう合問題4》

いろいろなしゅるいの文章問題をといてみよう。問題をとくときは、本文をよく読み、内ようをしっかりと理かいることが大切です。

【例題】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

今、商店がいはいは夏祭りて、おかしや食事けんなどが当たるくじ引きをやっています。引きかえけん一まいで、くじを引くことができます。引きかえけんは、商店がいいで二千円の買物をする、一まいもらえます。

ヒロトは、お母さんと商店がいいに買物にきました。

「引きかえけんは、二千円買わないと、もらえないんだよね。今日、そんなに買物をするの。」

と、ヒロト。

「そんなに買わないかもしれないわね。そういえば、くじ引きのせつ明を見たら、二百円の買物をする、ほじょけんを一まい、もらえるらしいのよ。ほじょけんが十まい集まったら、くじ引きが一回できるんだって。」

と、お母さん。

「へえ、そうか。じゃあ、いっぺんに二千円の買物をし

なくても、くじが引けるんだね。ほじょけんをもらったたら、しっかりとっておかないや。」

ヒロトは、はりきっています。

「ほじょけん十まいで、くじ引きが一回できるっていうことは、ほじょけんは、くじ引き〇・一回分ってことね。」

と、お母さん。

「〇・一は、小数だね。」

と、ヒロトは言いました。

(1) ほじょけんは、何まい集まるとくじ引きができますか。

(2) 「〇・一」のような数を、何と言いますか。

【答え】

(1) 十まい (2) 小数

【かいせつ】

(1) 本文に、「ほじょけんが十まい集まったら、くじ引きが一回できるんだって。」とある。

(2) ヒロトの言葉に、「〇・一は、小数だね。」とある。

〇〇商店がい  
夏祭りくじ引き  
引きかえけん

〇〇商店がい  
夏祭りくじ引き  
♣ほじょけん♣

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

ヒロトの町の商店がいては、夏祭りのくじ引きをやっています。くじ引きは、引きかえけん一まいで一回引くことができ、引きかえけんは、商店がいて二千円の買い物をするともらえます。また、二百円の買い物でほじょけんがもらえ、ほじょけんを十まい集めると、くじ引きが一回できます。

お母さんとヒロトは、ほじょけんの話から、小数の話になりました。お母さんが、

「ほじょけん一まいは、くじ引き〇・一回分ということね。」  
と言ったのです。

「小数の〇・一は、一を十等分した数なんだよね。」

「そうよ。ほじょけん十まいで、一回くじ引きができるでしょう。ということは、ほじょけん一まいは、引きかえけんを十等分したものでいうことですよ。だから、くじ引き〇・一回分って言ったのよ。」

「そうか。そうすると、ほじょけん二まいは、くじ引き〇・二回分になるの。」

「そのとおりよ。三まい、四まいってふえていけば、〇・三回分、〇・四回分となって、十まいだと一回分になるというわけ。そういえば、一を十等分した目もりがついている文ぼう具があるわよ。」

「え、そうなの。文ぼう具か。何だろうなあ。あ、ものさしだ。」

「正しい。」

「なるほど。〇・一っておもしろいなあ。よし、〇・一回けんを集めるぞ。」

ヒロトはますますはりきって、商店がいを歩いていきました。

(1) くじ引きのけんについて、次のようにまとめました。

( ) にあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

引きかえけんは、商店がいて (ア) 円、ほじょけんは、(イ) 円の買い物をするともらえる。

また、ほじょけんは、(ウ) まい集めると、くじ引きが一回できる。

ア
---

イ
---

ウ
---

(2) ほじょけん一まいは、くじ引き何回分ですか。

回分
----

(3) (2) のように表す数を何といいますか。本文中から、二字でぬき出そう。

--

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

ヒロトは商店がいの夏祭りの、くじ引きのほじょけんを集めています。ほじょけん十まいか、引きかえけん一まいで、くじ引きが一回できるのです。

「今、ほじょけんは何まい集まったの。」

本屋さんの前で、お母さんがヒロトに聞きました。

「今、六まいだよ。だから、くじ引き〇・六回分だね。」

「あら、すっかり小数を使っているのね。ほじょけん一まいが、引きかえけんの〇・一回分だから、六まいで〇・六回分、そう考えたんでしよう。正かいいよ。」

そこに、本屋さんから出てきた、となりの家の山田さんが通りかかりました。

「ヒロトくん、こんにちは。ほじょけんを集めているのかな。今、本を買ってほじょけんを三まいもらったから、あげよ。はい、どうぞ。」

「え、いいんですか。ありがとう。やった、〇・三回分だ。」  
 「〇・三回分って、何のこと。あ、そうか。ほじょけん十まいでくじ引きが一回できるから、ほじょけん一まいが〇・一回分っていうことだね。よくそんなこと考えたね。」

「はい。お母さんに教わったんです。山田さんにもらって、ほじょけんが九まいになったから、あと一まいでくじ引きができるんです。」

「そうか。あと  回分だね。お買い物のお手つだいをすれば、きつと集まるよ。」  
 と、山田さんは言いました。

「じゃあ、牛にゆうとパンを買って帰りましょう。そうすれば、ほじょけんを一まいもらえるわ。」

「やったあ。山田さん、ありがとう。おかげでほじょけんがもらえそうです。」

「それはよかった。くじ引きでいいものが当たるといいね。」  
 「あつ、そうだ。くじを引くことをわすれた。何が当たるんだっけ。」

ヒロトは、ほじょけんを集めることばかり考えていて、大事なことをわすれていたようです。

- (一) ヒロトが集めているほじょけんについて、次の  
 ( ) にあてはまる言葉を、漢数字で書こう。

本屋さんの前でお母さんに聞かれたとき、ヒロトが持っていたほじょけんは、(ア) まいだった。  
 その後にもらったほじょけんは、(イ) まいなので、  
 あと(ウ) まいでくじ引きができる。

ア	
イ	
ウ	

(2) 山田さんは、どこから出てきましたか。

(3)  に入る数を、小数で答えなさい。ただし、漢数字で書くこと。

(4) 線部「大事なこと」とは何ですか。本文中から七字でぬき出そう。


次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

ヒロトの町の商店がいては、夏祭りのくじ引きをやっています。くじ引きは、引きかえけん一まいで一回引くことができ、引きかえけんは、商店がいて二千円の買い物をするともらえます。また、二百円の買い物でほじょけんがもらえ、ほじょけんを十まい集めると、くじ引きが一回できます。

お母さんとヒロトは、ほじょけんの話から、小数の話になりました。お母さんが、

「ほじょけん一まいは、くじ引き〇・一回分ということね。」  
と言ったのです。

「小数の〇・一は、一を十等分した数なんだよね。」

「そうよ。ほじょけん十まいで、一回くじ引きができるでしょう。ということは、ほじょけん一まいは、引きかえけんを十等分したものでいうことですよ。だから、くじ引き〇・一回分って言ったのよ。」

「そうか。そうすると、ほじょけん二まいは、くじ引き〇・二回分になるの。」

「そのとおりよ。三まい、四まいってふえていけば、〇・三回分、〇・四回分となって、十まいだと一回分になるというわけ。そういえば、一を十等分した目もりがついている文ぼう具があるわよ。」

「え、そうなの。文ぼう具か。何だろうなあ。あ、ものさしだ。」

「正かい。」

「なるほど。〇・一っておもしろいなあ。よし、〇・一回けんを集めるぞ。」

ヒロトはますますはりきって、商店がいを歩いていきました。

(1) くじ引きの引きかえけんは、商店がいていくらの買い物をするともらうことができますか。

円

(2) ほじょけんは、何まい集めると、くじを引くことができますか。

まい

(3) ほじょけん一まいは、くじ引き何回分ですか。

回分



(4) 小数の  $0.\dot{1}$  はどのような数ですか。次のア～ウからえらぼう。

ア 十を十等分した数。

イ 二百を十等分した数。

ウ 一を十等分した数。

(5) 一を十等分した目もりがついている文ぼう具は、何ですか。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

ヒロトは商店がいの夏祭りの、くじ引きのほじょけんを集めています。ほじょけん十まいか、引きかえけん一まいで、くじ引きが一回できるのです。

「今、ほじょけんは何まい集まったの。」

パン屋さんの前で、お母さんがヒロトに聞きました。

「今、六まいだよ。だから、くじ引き〇・六回分だね。」

「あら、すっかり小数を使っているのね。ほじょけん一まいが、引きかえけんの〇・一回分だから、六まいで〇・六回分、そう考えたんでしよう。正かいいよ。」

そこに、パン屋さんから出てきた、となりの家の山田さんが通りかかりました。

「ヒロトくん、こんにちは。ほじょけんを集めているのかな。今、パンを買ってほじょけんを一まいもらったから、あげるよ。はい、どうぞ。」

「え、いいんですか。ありがとうございます。やった、〇・一回分だ。」

「〇・一回分って、何のこと。あ、そうか。ほじょけん十まいでくじ引きが一回できるから、ほじょけん一まいが〇・一回分っていうことだね。よくそんなこと考えたね。」

「はい。お母さんに教わったんです。山田さんにもらって、ほじょけんが七まいになったから、あと三まいでくじ引きができるんです。」

「そうか。あと〇・三回分だね。お買い物のお手つだいをすれば、きつと集まるよ。」

と、山田さんは言いました。

「じゃあ、パンとバターを買って帰りましょう。そうすれば、ほじょけんを三まいもらえるわ。」

「やったあ。山田さん、ありがとうございます。おかげでほじょけんがもらえそうです。」

「それはよかった。くじ引きでいいものが当たるといいね。」

「あつ、そうだ。くじを引くことをわすれた。何が当たるんだっけ。」

ヒロトは、ほじょけんを集めることばかり考えていて、大事なことをわすれていたようです。

(1) ヒロトは、はじめに、ほじょけんを何まい持っていましたか。

まい

(2) 山田さんは、どこから出てきましたか。

(3) ヒロトは、山田さんに、ほじょけんを何まいもらいましたか。

まい

(4) ヒロトは、山田さんに、ほじょけんをもらいました。あとほじょけん何回分で、くじ引きができますか。小数で答えなさい。ただし、漢数字かんで書くこと。

回分

(5) (4)で答えた回数分のほじょけんをもらうために、お母さんは、何を買おうと言いましたか。

(6) |線部ぶ「大事なこと」とは何ですか。次のア〜エからえらぼう。

- ア 買い物をする事。
- イ くじを引く事。
- ウ ほじょけんを集める事。
- エ 山田さんにお礼れいを言う事。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

商店がいの夏祭りも五日目。お母さんが買い物をしてもらった、くじ引きの引きかえけんとほじょけんが、だいたい集まりました。

「お母さん。引きかえけんとほじょけんが、たくさんたまったよ。」

ヒロトが、お母さんに言いました。

「へえ。何まいあるの。」

「引きかえけんが二まい、ほじょけんが十四まい。」

「へえ、ずいぶん集まったわね。夏祭りはあと三日だから、そろそろくじ引きに行かないとね。」

「お母さん。全部で、くじ引き何回分になるのかなあ。小数を使って表してみようよ。」

「ほじょけんが十まいより多いから、小数を使って表すときには、ちよつと注意がひつようよ。」

「分かった。ええつと、ほじょけん十四まいを小数で表すと、くじ引き〇・十四回分かなあ。」

ヒロトがそう言うのと、お母さんはこう答えました。

「ちよつとちがうわね。十四まいは、十まいと四まいに分けられるでしょ。じゃあ、十まいは何回分になるかしら。」

「そうか。十まいは、くじ引き一回分になるんだ。」

お母さんは、にっこりわらって、うなずきました。

「そのとおりよ。だから、十まいと四まいに分けて考えると、一回分と〇・四回分になる。はじめに十まいのまとまりを作って、それが引きかえけん一まい分って数えれば、分かりやすいでしょ。」

「そういうことか。じゃあ、引きかえけん二まいとほじょけん十四まいで、くじ引き三・四回分かな。お母さん。合ってるよね。」

「ええ。合っているわ。でも、〇・四回分のくじ引きっていうのはないから、くじ引きができる回数<sup>回数</sup>は三回ね。」

「〇・四回分は、むだなんだ。何だかざんねんだなあ。」

「そうね。ちよつとざんねんだけど、しかたないわね。」

(一) ほじょけん十四まいについて、次の( ) にあてはまる数を、漢数字で答えなさい。

ヒロトは、ほじょけん十四まいを小数を使って表すと、くじ引き(ア)回分と言った。

お母さんは、十四まいを(イ)まいと(ウ)まいに分けて、それが、くじ引き一回分と(エ)回分になると言った。



(2) ヒロトが持っている、引きかえけんとはじょけんでは、くじを何回引くことができますか。

⑤	⑥	⑦	⑧

(3) 線部「○・四回分のくじ引き」について、ヒロトは、どう思いましたか。「さだと思った。」につづくように、本文中から七字でぬき出そう。

回
---

だと思った。

--



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。なお、句読点や記号は一字として数えます。

商店がいの夏祭りも五日目。お母さんが買い物をしてもらった、くじ引きの引きかえけんとほじょけんが、だいたい集まりました。

「お母さん。引きかえけんとほじょけんが、たくさんたまつたよ。」

ヒロトが、お母さんに言いました。

「へえ。何まいあるの。」

「引きかえけんが二まい、ほじょけんが十四まい。」

「へえ、ずいぶん集まったわね。夏祭りはあと三日だから、そろそろくじ引きに行かないとね。」

「お母さん。全部で、くじ引き何回分になるのかなあ。小数を使って表してみようよ。」

「ほじょけんが十まいより多いから、小数を使って表すときには、ちよつと注意がひつようよ。」

「分かった。ええつと、ほじょけん十四まいを小数で表すと、くじ引き〇・十四回分かなあ。」

ヒロトがそう言うとお母さんはこう答えました。

「ちよつとちがうわね。十四まいは、十まいと四まいに分けられるでしょ。じゃあ、十まいは何回分になるかしら。」

「そうか。十まいは、くじ引き一回分になるんだ。」

お母さんは、にっこりわらって、うなずきました。

「そのとおりよ。だから、十まいと四まいに分けて考えると、一回分と〇・四回分になる。はじめに十まいのまとまりを作って、それが引きかえけん一まい分って数えれば、分かりやすいでしょ。」

「そういうことか。じゃあ、引きかえけん二まいとほじょけん十四まいで、くじ引き三・四回分かな。お母さん。合ってるよね。」

「ええ。合っているわ。でも、〇・四回分のくじ引きっていうのはないから、くじ引きができる回数<sup>回数</sup>は三回ね。」

「〇・四回分は、むだなんだ。何だかざんねんだなあ。」  
「そうね。ちよつとざんねんだけど、しかたないわね。」

(1) 夏祭りの五日目までに、ヒロトが集めた引きかえけんは、何まいですか。

まい

(2) ほじょけんについて、次の二つの問いに答えなさい。

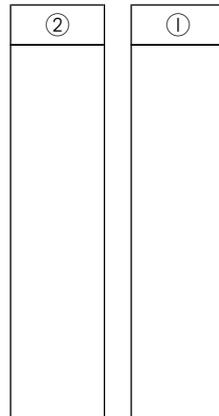
A ヒロトは、何まい持っていましたか。

まい



B Aを小数で表すとき、お母さんは、どのように表せばよいと教えてくれましたか。( )にあてはまる数を、本文中からぬき出そう。

Aのほじょけんを、十まいと(①)まいに分けて、それを、くじ引き一回分と(②)回分と表せばよい。



(3) ヒロトが持っている、引きかえけんとほじょけんでは、くじを何回引くことができますか。



(4) 線部「○・四回分のくじ引き」について、ヒロトは、どう思いましたか。次のア～エからえらぼう。

- ア 何だかさびしいと思った。
- イ 何だかざんねんだと思った。
- ウ 何だかあきれたと思った。
- エ 何だか悲しいかなと思った。

